京城新聞

統監旗
不及生

▲伊藤統監には母國内閣の變動せられたる爲め近々の中に歸東の由確定せしとか候が流石は元老政治家の事とて其の事柄の大小に拘はらず何につけ彼んにつけて一應其の皺だらけのれ顏丈は出さねばならぬ譯柄と相成り居る事と被存候

▲否な歸る歸らぬは御當人の御勝手にて敢て我々の容喙する限りには無御座寧ろ炎熱燒くが如き昨今の季節にありては其の繁劇なる御老体を白砂青松の邊に御靜養ありて可然と存候もソレに就けても面倒なるは公の往返の頻繁なる爲め其の度毎に一々統監旗の揚げ落しをなさねばならぬ事に御座候

▲もし今假りに之が統監旗にして靈ありとすれば必ず公に對して滿腹の不平を抱き居ると共に行く／＼は公の桂冠を望み居ることゝ存じ候否な統監旗揚げ落しの頻繁の如きは實の所什麽でも宜く唯統監旗としては公の爲め重大なる任務を負ふことの其の總てに於て屑からざることゝ確く被信候

▲統監旗が南山の山頂に翩々として中空高く飜る其の姿は一見すこぶる颯爽にして雄壯の如く相見ね、儼として雞林十三道を睥睨するの槪有之候も大切なる御主人公にして之が美觀に叶へる好成蹟を收むるものなきに於てはタトヒ統監旗のみ烈風強雨を冒して高く中空に飜り候ても薩ッ張り飜り甲斐のなきものかと被存候

▲言ふ迄もなく國旗は其の國の威嚴國光を代表せるものに候へば之が威嚴を保ち國光を發揮し行きてこそ始めて其の國旗の眞價は現はれ來ることゝ存候、然るに公にありては更らに此の國旗の眞價を發揮せず唯無心に飜る統監旗の勇ましさを見ては乃公の事又斯の如しと獨り已惚れ居るやうに見受けられ候が开は大の間違ひにて飛んでもなき御量見かと被存候

▲思ふに統監旗が日本の威嚴國光を代表し任に韓國に來り一と度南山の山頂に飜つてより爰に二年有餘朝風夕嵐翩々として克く其の大任を盡し來りしは一般我々の多とし諒とする所に候而も大切なる御主人公の成蹟のあまり思はしからぬを見ては心より愛想盡き、もはや此の先きとも之が國旗の任務は斷然辭するの外なしと思ひ諦むることゝ陰ながら察し入り候

▲而して公が今回の歸東は可成長かれよかし否な寧ろ再び歸任なきやうツマリ他の適材を以て統監の任に就かしむるやうとは是れ又統監旗の希望かと被存候、さは言へ何れにしても統監旗は早や已に公に愛想を盡かし居り候とは誰々たる南山の松風のさゝやき居る聲に御座候

●外國貿易旬報
(六月下旬關稅局調査)

區別	本旬 本年分	前年同期
輸出品價	三四七、九六二圓	四二五、三三〇圓
輸入品價	九五八、六九九	一、一四九、五六五
合計	一、三〇六、六二一	一、五七四、八九五
輸入超過	[illegible]	[illegible]

本年貿易額の港別左の如し

港名	本旬分 輸出額	輸入額	計
仁川	四一、〇六七圓	四一三、〇六九圓	四五四、一三六圓
釜山	一一七、八一八	二三四、四九〇	三五二、三〇八
元山	二五、二六六	五三、六七七	七八、九四三
鎭南浦	八九、六五四	九〇、五二一	一八〇、一七五
京城	…	七四、〇一九	七四、〇一九
群山	四、五三七	一二、五八四	一七、一二一
木浦	八、四九二	一〇、二七五	一八、七六七
馬山浦	八、五五九	七、九五一	一六、五一〇
淸津	三四	一〇、二二五	一〇、二五九
城津	二、一七五	八、五六八	一〇、七四三
新義州	四一、三四〇	四四、二八〇	八五、六二〇
計	三四七、九六二	九五八、六五九	一、三〇六、六二一

次に本年各港の貿易額を前年同期に比較するに左の如し

港名	前年一月以降本旬迄の累計 輸出額	輸入額	計
仁川	一、八七一、三三〇圓	九、六四七、四五一圓	一一、五一八、七八一圓
釜山	一、九二二、八二二	四、一五二、〇二〇	六、〇七四、八四二
元山	五四四、九七二	一、四三八、一五二	一、九八三、一二四
鎭南浦	七八二、一四三	一、六九四、二四四	二、四七六、三八七
京城	八、〇八六	一九四、五〇七	二〇二、五九三
群山	一、一三〇、七七五	三〇四、六九二	一、四三五、四六七
木浦	五八五、九五五	二九八、三七二	八八四、三二七
馬山浦	一三三、一三三	[illegible]	六九九、五五八
淸津	―	―	―
城津	八二、一五〇	一〇五、六二八	一八七、七八八
新義州	一五一、二八六	二五二、七〇二	四〇三、六八八
計	七、一七一、六六〇	一八、六五五、五五四	二五、八二七、二一四

輸出重要品表

品名	本旬 本年分	前年同期
米	一五九、一九五圓	二九一、一二〇圓
大豆及小豆	五一、四四二	四三、三八九
鮮魚乾魚及鹽魚	五、九三九	二九、四五五
牛皮	六、二九九	四、七九三
人蔘	―	二〇
棉花	八七一	―
生牛	三、一三三	三〇、一一三

輸入重要品表

品名	本旬 本年分	前年同期
食鹽	一〇、〇三二圓	三、一八〇圓
砂糖及精糖	二〇、七七四	三、二六三
淸酒	一三、三五九	九、五五〇
石油	一六〇	三五一
打綿	二、三五五	五、三八六
綿糸	一六、五四二	二六、九二一
生金巾及シーチング	八〇三、三三六	三五、四一四
晒金巾	二〇、三三三	一、〇九五
日本木綿	二六、三四六	二八、三八二
麻布	三六、三三三	一八、八八四
絹布	二〇、三三〇	一五、〇九〇
紙	九、三〇二	一一、四〇七
石炭	四八、二五七	三七、一一四
熟鐵	一〇、三四三	六〇、三三〇
煙草(葉卷ヲ除ク)	四五、九一三	三、四四〇
木材及板(鐵道枕木ヲ併ス)	九二、五一七	一二、三五二
セメント及石灰	八、一二四	一三、八三〇
マッチ	九、九三〇	三、八八二

●園藝農産物需給狀況(續)

(二) 蔬菜

韓人の需用としては自國産のものにて十分なるを以て別に輸入を仰の要なしと雖も仁川は十二月下旬より三月中旬までは寒冽にして地表氷結し全く蔬菜を見ること能はざるを以て僅かに溫室にて萌したる豆芽を以て之を補ひ馬鈴薯を多量に用ひ居れども外國より輸入したる蔬菜は高價にて未だ韓人の口に入ること能はず主に在留外國人の需用に供せられ相當賣行あり仁川に於ける韓人は自家の需用として主に醬菜(漬菜)を自作するに過ぎず偶々販賣の爲め栽培するものあるも其作高多からず之に反して支那人は居留邦人の需用として盛に蔬菜を栽培せり四月頃より十二月頃迄の間に於て市場に蔬菜を排列し或は行商して居留地の需用に應ずるものは重に支那人なり日本人も亦近來蔬菜の栽培に從事するもの漸次其數を增加し一面觀賞植物を栽培して花時行商するものあり園藝上の花卉に乏しき仁川に在りては其賣行相當に之あるが如し

日本より輸入せる果實の中蜜柑は最も韓人の嗜好に投じ今日の狀態にては日本人より韓人に賣行く分寧ろ多額なるに至れり當業者の言によれば昨年の如きは韓人七分日本人に三分位の比例にて韓人の嗜好は漸次增進の傾向あり其他果實に至では主として日本人の需用にして韓人には賣行極めて僅少なりと云ふ

小說 新不如歸 (四十七)
篠原嶺葉著

「何分あんまり俄然の事で、今日休職になる、明日の朝出發と云ふのだもの、私共も何が何だか唯もう呆氣に取られて、漸く旅準備だけ調へて出發させたので、立たした後で種々な事を思ひ出しては、濟さんと二人で泣いてばかり居るのだ。」

と、槇子は今更に淚を袖に拭ふのである。

「だけれど、母樣、何が原因で休職になつたんでせう。」

と、百合子は兄の休職の原因を問ふた。

「うれがさ、何が原因だか突然の事で義祐にも合點が行かんと云ふのだ、けれども大方此間の事件ちやらうと想像してるのさ、それより外には何にも休職にされるやうな理由が無いのだからね。」

「此間の事件からつて、此間の事件が奈何して知れたんでせう、知れる理が無いぢやありませんか。」

「然う思ふのだけれど、休職になつた所を見ると、猶且誰かが知れたんぢややらうと思ふのだ。義祐の云ふのには足柄少佐が此前の結婚を謝絶つた腹立紛れに、必然讒訴をしたに相違ないと云つたのよ。」

百合子は結婚を謝絶つたためと聞いて、先刻迄中の事を思ひ合して、悚乎と身を顫はした。

「那樣執念深さうな男ですから、それは何とも云へませんわね。」

と云つて、何事か案じ出した如く、急に打沈むだが、やがて如何にも困じ果たと云ひたげな調子で、

「本當に私あの人の事思ひ出すと、悲しくなつて胸先が痛くなりますわ、旦那の友人でなけりやまだしもですが、生憎同じ官衙に勤めてる親友なんですから、これから後も初中終遊びに來るのは、先刻の口振でも解つてるんですもの、其の度に可厭な事を言ひかけられたら、辛い思を爲なきやならんと思ふと、全然針の莚に坐つてるやうな心地が爲ます、然うかと云つて些とでも機嫌に障るやうな事でも云つたり爲たりして御覽なさい、兄樣の秘密を旦那樣に告げて、二人の間を裂くやうな事は爲かねん男ですもの、甚麼無理を云はれても腫物に觸るやうに待遇つて居らにやならんと思ふと、眞實今から胸が痛いやうな氣地が爲ますわ、どんだ男に、どんだ秘密を握られたもんですね。」

云つて苦しそうな太息を吐いた。

槇子も濟子も、共に同情を表して、

「本當にれ前が可愛想だわね。」

「どうにかして取り殺して遣りたい位ですね。」

「丁度鷹に睨まれた小鳥のやうなもんですわ、先刻も然う云ふものですもの、貴方の實家は僕の舌三寸で生すも殺すも勝手だなんて、私本當に悔しくて堪らなかつたわ。」

「あんまりな言樣だから、勝手にお爲なさいと云つてやらうかと思ひましたけれど、若も西脇義祐は露探だなんて噂を立てられやうものなら第一お父樣に申譯がなし、西脇家は其れきり社會の人と交際の出來ない事に成行くと思つて悔しいのを辛抱したもんですから、眞實悲しくて物が云へなかつたんです。」

何時しか夜の幕は室の隅から閉ぢ出して、時計は緩く四時を告げた。

百合子は蹈へた如く起上つて、母や嫂の留むるを耳にも入れず、匆々尾花家へさ歸つたのである。

京城新聞

內閣更迭と對外政策

無爲無能の嘲に包圍せられて漸く一條の命脈を保ち來りたる西園寺內閣も終に瓦解の運命に陷りたり、內閣總辭職の報は天籟の如く響き久しく沈衰せる株式市場は頓に活氣を呈し、國民は歡呼の聲を放ちて之を喜べり、之を以て見るも西園寺內閣が如何に民心の信望を失したるやを知るに足らん、後繼內閣の組織に就ては、桂侯に大命下るべし、或は山本伯ならんと未だ確定せざるも、現時の趨勢に於ては桂侯の外此大任に當るものなかる可し、果して桂侯により新內閣が組織さるゝとすれば、吾人は双手を擧て歡迎するもの也、桂內閣組織さるゝとせば少くとも全般の政策に於て完全を期すべからざるのみならず、或る點に於ては現今よりも數歩を進むるを得べし、然れども西園寺內閣の無爲無能は我帝國海外政策の發展に好影響ありと信ずるものなり、殊に吾人は帝國の大陸政策及び韓國經營の見地よりして桂內閣の組織を歡迎するものなり、之を換言すれば伊藤系の現內閣倒れて山縣系內閣の樹立を以て帝國海外政策の發展に好影響ありと信ずるものなり、何となれば山縣公は近時の我對外政策が余りに消極に傾けるを慨し、痛切なる警告を西園寺內閣に與へたりと云ふ、其對韓經營に關して功績の擧らざるを攻むる事甚だ慨切を極む、果して之を裏書きとせば山縣公未だ老いざる也、我對外政策の緩慢なる事に國民は切に慨慨せり、此點のみにても西園寺內閣は其存在を許すべからず、山縣公の警告は國民の聲なり、天意なり、吾人が山縣系の內閣を歡迎する所以のものあらざらんや、吾人は滿洲經營の如きも後藤男にして手腕を揮ふ能はざらしむる傾ありと聞く、後藤男は常に之を憤慨せりと聞く、帝國の大陸政策は滿韓の共同經營によりて發展せらるべきなり、現時の趨勢は此貴重なる融和を缺ける觀なきに非ざるなり、吾人は此點に於ても山縣系內閣の成立を希望するものなり、而して單に韓國經營の上より見るも、桂內閣にして組織されば東洋拓殖會社に於ても從來の如く伊藤の融和を計ると云ふの如き姑息の經營を改め、以て韓國經營に大なる刷新を見るべし、要するに帝國の對外政策は伊藤系の內閣に望むべからずして、山縣系の內閣により幾分の發展を庶幾すべしとは國民全般の輿論なるが如し、今や國民膨脹の意氣は邦內に充溢せり、帝國海外政策の發展を期する將に此時にあり然るに當局の對外政策は萎靡振はざるの極點に達す、此際に於て西園寺內閣倒れ桂內閣成立せんとする蓋し大勢の然らしむる所なり、吾人が双手を擧げて之を歡迎する豈其れ故なからんや。

●對星樓茶話

△漢城附近に於ける暴徒の大部分を指揮したる巨魁許蔿は重罪として平理院に廻されたりと彼れ許蔿は日露戰爭當時より暴徒の巨魁となり、所謂長慕樂を破壞すべく、排日論の急先鋒として少からぬ奔走に力めたりき、彼は慶尙儒生の魁分にして慶尙出身の大部分は彼の人物に對して重視したりき、吾人は斯る巨魁の捕獲を以て暴徒鎭壓の一大功績と認めざるを得ず

△漢城は南北に發展し、新漢城は東西に發達せり

△漢城府尹は其市民に向つて漢城公園を設備する爲め市民に公園税として一百萬圓を支出せしむること餘り難からず、市民の數約二十萬とせば、一年一口一圓とせば五年にして完成し得べし、而かも其公園により收入すべき金額は實に幾倍と爲し得べき方法あり

△韓國人口の減衰は赤痢及び疱瘡其主要なる部分を占む

△韓人の血脈より仕官と政權を除外すれば全く骨と皮とのみ

△漢城人中最も異彩を放ちたるは元老金允植氏が文明の洗禮を受けたためにシルクハットを被ることゝなり、慶善宮の財產が急激に膨脹したることゝなり、永宣君が妓生を呼べることゝなり、前宮相と新宮相と久しき親交を破れることゝなれり、然れども是●

△暴徒は頻に下火となれり、然れども是れ決して鎭定にはあらざる也

△賣卜者儒生は慶尙の產物也、行商及一攫千金は全羅の特產也、兩班は忠淸の名產にして、賊徒は黃海及平安に於て尤も猛烈の性格を表はし、驪臥は咸鏡の特產也、濟州の馬と江華の石、陵の木とは韓の富源たるを失はず

東京電報

●連絡船午前發廢止

鐵道院は關釜連絡船午前双方より發航の分共に廢止する事に決定せり(六日發)

釜山電報

▲日高秘書官の通過

日高內大臣秘書官は今朝の急行列車にて京城に向ふ(七日發)

雜報

●副統監の南宮參內

曾禰副統監は昨日午前十一時より國分佐竹兩秘書官を從へ昌德宮に參內し皇帝に謁見して歸任の挨拶を言上し終て德壽宮に參內太皇帝に謁見同上挨拶あり直に退出せり

●後藤男と仁川

後藤男は來る九日京城を經て下仁する筈なるが目下同男歡迎につき信夫理事官富田民長の間に協議中なるを以て何れ盛大なる官民歡迎會を催す事となるべし

●(勸業)博覽會開設の議

韓國政府は明治四十五年東京に於て開設せらるゝ日本大博覽會に參加する準備として隆熙四年度京城に勸業博覽會を開設の議ありと云ふ

●(宮內府の)新聞禁讀

宮內府中庶務課調査課及內藏院の官吏は今回新聞紙閱讀を禁ぜられたりとの說あり曾て露國宮中の諸官が新聞禁讀の命を受けたることありしが閔大臣小宮次官がまさか露國式を眞似られたるにも非るべく甚だ不可解の事なりと云ふものあり

●城壁處理委員會決議

既報一昨日內部に開催せし城壁處理委員會は東大門曲壁を取毀ちて石材を漢城衛生會に利用せしむる件、東大門側なる五間水門を江川浚泄のため取拂ふ件、平安北道東林城壁を京義鐵道改築のため取毀つ件の三問題を何れも原案通り可決せり因みに右の工事の第一は漢城衛生會に於て第二は內部工事局にて第三は鐵道管理局に於て處理する筈なりと云ふ

●財產引繼の進捗

宮內府所管財產國有引繼は其の事務餘程進捗し英親王宮所屬のもの及び判理局農林課所管のものは大略引繼を了し他も着々進行しつゝありて本週中には全部引繼濟となるべしと云ふ尙は既報せし慶善宮より度支部に引繼ぎたる書類中不足なりし舊文記は一昨日全部を提出し來れり因みに佐々木事務官は昨日午後より宮內府に出頭して引繼事務を處理し居れり

●財產整理局官制の內容

今回宮內府所管及び慶善宮所屬の財產を國有に移されたる結果度支部に特別の機關を設けて國有財產管理に關する事務を處理すべき事は既報の如くなるが愈々財產整理局を新設する事となり一昨日閣議を經昨日の統監邸に於ける大臣會議にて審議したる筈にて其の內容は度支部次官長官となり以下の職員は專任高等官二名及び數名の兼任高等官並に數名の判任官を置き國有民有の區別其の他國有財產に關する一切の事務を處理する事となるべしと云ふ

●許蔿の護送

既報の如く憲兵隊に逮捕中なりし賊魁許蔿は昨日午前十時憲兵隊より人力車に乘せられ兒玉伍長四名の憲兵と共に護送して平理院に引渡されたり

●賊魁李康年の護送

淸風附近の戰鬪に於て賊魁李康年を逮捕せるは既報の如くなるが去る五日忠州より京城憲兵隊に護送せられつゝあるが八日頃到着直に豫審に附せらるべしと云ふ

●賊魁李康年の事

同人は慶尙北道聞慶の兩班にして儒生なり學を江原道柳麟錫全羅道崔益鉉等に受く明治二十七年の騷亂に當り黨與を組み柳麟錫に應じたるも一敗地に塗れ職祿を望んで得ず閑々十年其鄕に蟄居す昨年偶々閔肯鎬江原道原州鎭衛隊の兵を提げ暴動を起し忠淸北道忠州に進出するや康年亦聞慶附近の火賊及無賴の徒を集めて聲援し一時五六百の配下を有せしも昨年十二月初旬以降地方巡査隊より屢々攻擊を被り部下四散し手兵僅に七十に下り慶尙北道小白山方面を根據として出沒せしが十二月十六日忠淸北道永春郡額成谷に再擧の謀議中第一巡査隊に包圍せられ重傷を負ひ僅かに遁れて江原道寧越方面に走り爾來して聞く處なかりしが近時再び江原道慶尙北道間に出沒するに至れり康年眞に國事を憂ふものとせば一昨年閔宗植崔益鉉が謀して忠淸全羅兩道に暴動を起したるに當り必らず應ぜざるべからざりしに計茲に出でずして昨年閔肯鎬が忠淸北道忠州に來り騷擾するに至り忽ち之に與みしたるより見れば寧ろ其職を得ざるに憤り自暴自棄に出でたるに非ずや而して參奉主事等の官職を賣却して軍資金を收め以て民心收攬策を採るとの說ありしが康年が遺留品中辭令書印等を發見して知るを得たり康年單に首魁趙東奎より讀書雜御に長ずるの故を以て軍務長として禮を厚く辭を卑ふし招かれたるを以て諾し隨從せしが後東奎は康年と隙を生じ之より前第一巡査隊に生擒せられたる首魁曹秉黔は殘徒四名を統率して獨立するに至れりと然り而して康年は昨冬近寒の候其子が家鄕より送付せる美服を纏ふや將卒艱苦を共にするに當り獨り之を思はず暖衣を纏ふは軍令に背くものなりとし直に斬首せる如きは蓋し賊魁中稀に見る處なり

●巡査戰死す

堤川警察署巡査大野與四郎は七月一日犯人護送の途中堤川郡平洞(堤川四里忠州六里)附近にて賊徒に遭遇し奮戰の後遂に戰死せり

●咸鏡道の賊徒と農作

△安邊郡永豐社並に文川、高原、陽德地方一部の部落には少數なる賊徒出沒常なく一般人氣不良の爲め良民は人心恟々として各自生業に安んじ得ざる狀態にして元山平壤に若くは元山より永興に通ずる街路上附近の部落にして守備隊並に憲兵警察官等配置の個所は格別の損害なきも交通不便なる邊僻の地に在りては賊徒の出沒頻繁なる爲め隨て人心動搖の結果地方の農民等は播種耕作期に際するも平年の如く其堵に安んじて農業に從事し得ざるの狀態なり而して賊徒の農民耕作上に及す損害の程度は詳細なる調査を遂げざれば其統計を示すこと不可能なるも前項に記せる永豐社及高原、陽德地方の中交通不便なる邊僻の部落に在りては賊徒の出沒常なく地方の農民は往々恐怖の余り自己の田畑を捨て他に避難するものあるの狀態なれば之等を計上する時は郡內耕作上に及ぼす損害は平年に比し約一割弱の影響(賊徒の爲め耕作なし能はざるもの)を蒙り居れり

△會寧地方は賊徒出沒の爲め農民の耕作上に及ぼす影響は賊徒の出沒なき爲め農民は例年の通り播種耕作に從事し更に影響無と

△三水郡三水邑內外及最寄村落に於て總戶數八十七戶の內五十五戶は一月十、十一日の兩日大討伐の際燒失其損害總額二萬一千余圓にして爲めに該被害者等は仲坪塢或は寒村孤落の親戚の內に避難し未だ農業に着手せず播種耕作に着手せるもの僅かに十四五戶に過ぎず而して郡內各村落を調査するに各洞通して賊徒の爲め避難せるもの平均一二戶宛にして重に一進會員同親戚等のものなり以上の如くなるを以て農民の耕作上に及す影響は莫大にして平年に比し二十日余の耕作に遲延を來したりと云ふ

△又元山、德源並に安邊の各地方は一般に靜穩にして隨て民心の動搖なく孰れも各自生業に安んじ農民は終に農繁に逐はれ播種耕作等に些の影響なく平年に異るなしと云ふ(未完)

●愛國婦人會鎭南浦委員部狀況

愛國婦人會鎭南浦委員部長秋本理事官夫人より此程鶴原本部長宛報告したる會務の要領は左の如し

▲第一回會務擴張　昨年九月始て官民夫人中より役員を撰定し會務擴張會員增募に着手し在來會員百十三名の外三百二十名を得同月末第一回總會を開き頗る好成績を得たり

▲地方婦人會の併合　鎭南浦にては地方婦人慈善會なる團體ありて役員會員は概ね愛國婦人會員なるを以て兩會兩立の必要なく茲に兩會一致して慈善的方面に活動することゝなり本年一月慈善會は基金建物(病室等)一切を擧げて愛國婦人會委員部に引繼ぎて合併一致管內慈善事業に盡すことゝなりたり

▲軍人警官の慰問　昨年韓國政變以來警察官憲兵隊守備隊は酷暑嚴寒不便缺乏等の困苦に堪へ能く其任務に盡せる依て當委員部は管內十數箇所に散在する各隊に對し慰問の勞を執り當港出入の軍隊に對しては懇懃に迎送の禮を執り其用費百餘圓にして感謝狀を受領したる事十餘通に及べり(欄外に)

●社長主筆歡迎會

京仁新聞記者團は一昨夜花月樓に於て京城日報社長大岡氏主筆原田氏の爲めに歡迎會を開催せり會するもの各社代表者及通信員の諸氏二十餘名にして始めに中島大每氏記者團を代表して歡迎の辭を述べ次に大岡原田兩氏の答辭あり續て獻酬盛に行はれ歡樂の間に閉會せしは午後十一時近くなりしと

●軍需品輸送と運輸部

鐵道管理局が鐵道輸送貨物の增收を計らん爲め岡運輸部長は曩に上京し陸軍省に出頭し從來船便にて輸送し來れる韓國駐剳軍の軍需品を全部鐵道にて輸送せしめんと協力し之れが交際を重ねたることは既報せし所なるが漏れ聞く所に依れば陸軍省に於て軍需品の輸送を愈々鐵道に託することに決定し過日宇品陸軍運輸部員戶川少佐をして之れ等の調査をなさしめ一方陸軍御用船安丸江陽丸の二隻は本月限にて之れを解くことゝなり又鎭南浦出張所は近々中に仁川支部に引上げ更に釜山出張所に合併すべく安東縣出張所は大連航路あるを以て之れを存置し仁川支部は今直に之れを廢するが如きことなきも近き將來に於ては必ず釜山に移轉さるべしと云ふ

●地主派の請願

一時仁川の大問題なりし地稅問題は信夫理事官の裁決によりて一段落を見たる次第なるが地主派は尙之れに滿足せず統監に請願書を提出すべく目下草案中なりと詳細は追つて敍述する所あるべし

●注目すべき決算

仁川開港二十五年紀念祭に關する諸支拂は來る十三日迄終了する筈なるを以て本月末には決算報告をなすに至るべし因に該決算は仁川市民の注目に價する處なるべし

●燈臺船旗章改正●　關稅局に於いては今回燈臺局所屬船の旗章を改正し白地に赤色を以て光字を表せるものに變更したりと云ふ

●鎭南浦商人の行商

鎭南浦の日本商人は昨年十月以降黃海道方面に單獨商業に赴くものなかりしが六月中旬鎭南浦秋本理事官は殷栗、豐川、松禾の各郡を巡視し歸來後一般商人に對し賊徒は最早鎭定の情況なるを以て此際各商人は奮勵し先づ軍隊駐屯地等に至り商店を開くべしと勸誘したる結果近々商人等も單獨にて黃海道內へ視察方々出て行くもの勘からず鎭南浦憲兵分遣所へも出願し軍隊憲兵或は警察署所在地並に附近の賊情等に付て問合すもの屢々ありと云ふ

●小學校の上棟式●　京城民團立第二尋常高等小學校は南大門側に新築中なりしが本日上棟式を擧行すべしと

●道書記官の交迭

慶尙北道書記官鹽川一太郎氏は京畿道書記官に京畿道書記官竹內卷太郎氏は慶尙北道書記官に轉任する事に決定し今明日發表せらるゝ筈

●澤田道書記官の來着●　千葉縣東葛飾郡長にして任官の儘黃海道書記官に任せられたる澤田乙三氏は一昨日來京し昨日內部に出頭して新任の挨拶をなせり

●韓官任命●　六日附

農商工部書記官　洪在夏
工業傳習所技師　安衡中
漢城府事務官　金宇鉉
陞敍奏任官三等　今村兎毛
任警視敍奏任官三等　陳軍吉

●民團藥劑員の解職●　漢城病院藥劑員土井[illegible]次郎は昨日依願其職を解かれたり

●朴飜譯官の葬儀●　一昨六日死去したる學部飜譯官朴成圭氏の葬儀は本日午後三時より南大門內メソジスト敎會に於て執行することゝなれり

●道路寄附と賞與●　曩に小學校道路敷地五十七坪を民團に寄附せる東京淺草區東三筋町隈本榮一郞へ銀杯一個、並に小學校敎育費に金一百圓を寄附せる鐵道管理局長大屋權平氏へ木杯一組を何れも其賞として賞勳局總裁より授けらる

●近事片々

▲桂侯● 內閣を組織するに於ては曾根子を藏相に据へんとの說頻に持上るも蓋し想像耳

▲伊藤● 公樞院議長となり曾根子統監となるの說が眞相に近し之が判明の期近にあり

▲一度● 踏み出す上は後に退かぬと決心せる曾根子統監として其決意を貫くが當然也

▲桂內● 閣成立すれば曾根子の統監は先適當と云はざる可らず閣臣に列するは不可也

▲統監● としての曾根子は伊藤公と較べて如何あるべきか其實力に於て餘り遜色なし

▲曾根● 子の遣口は伊公の如く華麗ならざるも浮華の態なし却てヨボ統御に効あらん

▲政策● 巧妙なる點は更に無るべきも却て堅實の地歩を占むる點に於て優る者あらん

▲曾根● 子に今少し政略なる者あらば申分なしと云ふ者あり然り其が子の領分ならん

▲小智● を弄で失敗するよりも寧ろ機變を用ひざるが怪我なし唯所信を斷ずる勇あれ

▲曾根● 子韓國經營に於ては未製品なり茲暫くは試驗中果して能く料理し得るや否や

▲人言● を容るゝ雅量は子の長所なり能く之を發揮し民間有志の意見をも徵せよかし

▲後藤● 內閣の組織に就て追々新しき顏觸出現せり一木喜德郞奧田義人等其最なる者

▲最も● 意表なるは後藤男の大藏大臣也此際財政の難局を切拔るは適材に非ざる乎

▲桂侯● の苦心する處も藏相に其人を得ることにからむ後藤男の入閣甚だ妙ならん乎

▲一說● には寺內と後藤同盟して西園寺內閣を壓迫せしは後藤入閣の野心より出づと

▲財政● の整理は目下の最大急務此局には新人材を入れて積弊を更に一掃する要あり

▲田尻● 男の呼聲も出で來る藏相の椅子は茲暫くは混沌たるべし其中に人材現出せむ

▲內務● は小松原大浦淸浦等の呼聲高けれども何れも適任と云ふ可らず擇材最も肝要

▲原敬● に比して皆遜色あり其中淸浦人格稍大なるも內務の適材ならず大浦亦不可也

▲桂侯● 大石正巳犬養毅等を擧げて閣員となさば或は妙ならむ大浦小松原に優る萬々

▲寺內● 正毅を內務に移し石本若しくは宇佐川を陸相とするも面白からむと云ふ者有

▲地方● 政務の擧ると擧らざるは內相其人の威望如何に依る近時益々此傾向顯れ來る

▲外務● の小村は先づ適材也我外交家には乍遺憾小村以上の者を未だ見出さず心細し

▲都築● 井勝等は未だ外相たるの力量も材幹もなし遣外公使が相當の役目なるぞかし

社告

今回京城新聞を創刊仕候に付ては偏に讀者諸君の御諒察を仰ぎ候微力なるより寄らず候も諸君の御同情に答ふるの覺悟に御座候間何卒京城新報同樣御愛顧の程伏て願上候
追而舊京城新報社に關する債權債務其他殘務の一切は當方にて取扱申候に付左樣御承知相願申候

明治四十一年六月七日

京城西署西小門通
京城新聞社

南山の自然主義

綠陰深き處惡緣ありさかや、實に此の南山は彼の自然主義とやらの實劇場とはなりぬ、樹間涼風の吹き來る所には何れも一對の男女居らざる所なく、而も嬌語喃々として蜜の如き情話ならざるはなしと、記者もまた其實劇の有樣を見ばやと、麥藁帽子を阿彌陀に被りて汗たら〳〵と流しつゝ美人茶屋の背後より徐々として登り行きぬ、時に木の葉繁く茂りて涼風颯と吹き來りて休むに恰當の處あり、幸ひ木根ありて恰も我を待つものゝ如し、やをらそこに腰を下して先づ一ぷく、山下の景色を恍惚と眺めつゝある中に睡氣催し來るまゝに木の根を枕に華胥の國にと遊びける、ふと目を醒ませば微かに男女の囁語ける聲ぞ耳に入る、借自然主義の本躰これなりけりと、耳を欹てゝ聞けば女の聲として

「妾、どうしても日本に歸らなくてはならないのよ、それが變なのよ不意に父樣が突然にそう仰るのよ、どうも京城に置ては風儀が惡くなつていけないつて、妾思ふに父樣が貴君と妾の關係をお知りなすつたんじやないかと思ふわ、でも妙ですよ、」と心配さうに語れば男の聲として

「或は然うかも知れません、僕も思ひあたる節もあるのです、果して父樣が我々の關係をお知りなすつて貴女を日本に返すとすれば貴女はとても近き將來に再び京城に來ることは六ヶ敷でしよう、さうすれば貴女はどうなさる積りです、僕の如きは最早顧るに足らないと云ふのですか、貴女の御決心によりては僕も亦考があるのですよ」

と些と荒々しく言へば女は歎息したる如き聲にて

「貴君は妾をさう節操のないものと御思召すの、妾は假令父樣が何とおつしやつても貴君と別れる考へはないわ、それに就いて御相談をしたいと思て貴君に來て頂ひたのよ、それを妾が日本に歸れば貴君を顧ないなんてそれはあんまりひどいわ、貴君はまだ妾の心が判らなくつて、若しも貴君が眞個にさう妾を見て居られるなら全く心細ひわ、ね貴君眞個に考へてくださいよ」

男は稍々決心したらしく言ひ放つた、「僕も日本に歸りませう、なに東京に行たつて會社にでも出れば困りもしない、全體貴女の言葉は眞個でしようね」と念を押されて女は聊か意外と云ふ調子にて「あら、貴君も日本に歸りなさるの、こちらの御役もやめて、それはあんまり氣早いわ」と女は男の決心の確さに却て困て居るらしい風である（まだある）

●仁川の魔窟

仁川は近來メッキリ不景氣となつたには相違ない、併し不景氣と助平心といふ奴は兩立しないものと見え此の不景氣〳〵といふ喧聲を聞くにも拘はらず同地の小料理屋（へ小料理屋といふと名は宜いが實は下等なる淫賣屋なり）の繁昌はドウして非常なその昨今の日中に一日の勞働を終はりて薄暮夕風涼しきほとりを逍遙する者は、試みに躍で足一と度淫賣の魔窟に踏み入れたものは恐らく一驚を喫するであらう、燒くが如き足を回らして新町より佛國教會堂の下通りを歩いて見玉へ例の白粉コテ塗りの屁ッ鉢淫賣がヅラリと表の椽臺にまるで四斗樽に荒菰をヒン卷いたやうな大きな尻を据へて「チョイトマー寄つていらつしやい」とか「チョイト樣子の宜いれ方」とかいろ〳〵の文句を並べて客を曳くのに餘念がないのである否な夕景の間は左程でもないが八時と過ぎ九時と移り十時と經つに從つて胸に一物ある助的の客の數はダン〳〵加はり果ては夏の夜の短かきにも拘はらず二時三時頃となると三味線の音は聞くも古めかしい定まりのソレは〳〵は非常な客で彼の調子も怪しきサノサ節カラッパ節の俗謠に和して四隣の人の夢を驚かさん許りであるのみならず中には色餓鬼の男と女とが相擁し相抱きて痴話喃々今にも風となり雨とならんかとの醜態を演じまじき程であるサテ此の教會堂下通りの淫賣屋の家の數は總計十五六軒もあらうかいづれも今では公然たる娼家で白晝ですら客に淫を鬻いで居る有樣ナントいまはしい次第ではあるまいか而も此の內其の筋の眼を晦まし無鑑札で營業をして居る家がイクラも有る現にある人の話に依ると先月新町から佛國教會堂下通にいたる迄開業した淫賣屋の數が十數軒あるが其の內正當に其の筋より營業の許可を受けたものは僅ホンの三四軒であるとかのことである、併しソレ等の事はドウでもよいとして茲に新町一丁目に○○屋といふ非常に奸惡な小料理屋があるが其の主人といふは世にも稀なる因業な惡漢にて此れ迄自分の家に抱へてる可憐なる酌婦に對してドノ位惡い事を働らいたか惡辣な行を爲したかは殆んど話しの外であるがソは何れ精探の上紙上で素ッ破抜くことゝしやう

●永登浦より

當地に於ける工業界の狀況を報ぜんに大塚醬油釀造所は益々發展しつゝあるが去る四月鐵道管理局より運賃割引の特典を得たり各地よりの注文非常に多く大に販路の擴張に努め居れり志岐組の煉瓦及び瓦製造工場は毎月優に一千萬個の製出をなすを得將來大に有望なるが如し度支部の分工場士代製造所は稍々大規模なる製品の輸出は比較的少なけれど若し盛んに製出し之を他地方に輸出するの時に至らば他の製造所は多大の打擊を蒙むるに至らん尙ほ農業は播種期に際し降雨なかりしかば自然播種も遲延せしも此頃の降雨にて多少の見直す所ありたり

●德壽宮に鶴

去る六日朝のことなり德壽宮に九天より翔り來りたるか或は其處らの庭飼が逃げ亡せたるかナベ鶴一羽舞ひ下りたれば衛士等寄り集りて之を捕ね目下同宮內に飼養しありと韓皇室瑞祥あり焉

●金鑛の勞働者

平安南道檜木洞附近雲山克城洞には米國人の經營せる金鑛會社あり之に出入する鑛夫は四百名に下らず是等の勞働者は多く清韓人にして附近に居住せるも內多數の無頼漢は勞働を忌み常に賭博を業とせりと

●行旅病者

京都府乙訓郡新足村五十棲五十藏（十九）は元山街道にて或事業に從事中四月十五日賊徒の爲め銃傷を受け京城に護送せられ十八日より本願寺別院に收容治療の處今回全快し歸國旅費の一端として京都府人會有志者より左の金品を寄贈せり

金一圓也村上幸次郎　金一圓五十錢三宅意美　金五十錢杉本呉服店　金五十錢井上履物店　金廿錢飴谷久助　金廿五錢西村豐次郎　金一圓五十錢西原龜二　金五十錢濱田淺藏　金卅錢日下部喜太郎　金廿五錢尾崎市太郎　合計六圓五十錢

●出火原因に就て

去る四日西小門通りの畫火事に就ては其の原因未だに不明なるが出火元相川方の云ふ處によれば相川方にてパンを製造するは通常午前中の事にてパン窯に火を入るゝは其の前夜十時迄とし十一時過ぎは火を消して堅く密閉し翌朝其の火氣を以て製造する者故午後に至る迄發火の因となるべき火氣の存する道理なしと云へば其の煙突より發火したる者とは受取れず夫れかとて別に放火の形跡も無く其筋にては今尙不明として疑問の裡に過ごし居れるが或る近路の風說に依れば相川方は其の建家こそ自己の所有なれ其の地面は支那人當月亭の所有に係る者にて其れが爲め相川裏手地續きの地主某支那人との間に紛紜を醸したることもあり夫れが爲め支那理事府を煩はしたることもありと云へば或は發火の原因は意外の邊に潜み居るやも測られずと云ふ者あり兎も角も聞くが儘を此に記し置く

●不正の葡萄酒

南大門通り二丁目金城館方滯在重見瀧殿は去る一日本町六丁目古物商島若熊次郎より香竄葡萄酒二打を三圓六十錢にて買求めたるも自宅に持ち歸りて後ち其の餘りに安價なる故念の爲め栓を抜きて試みに飲みたるに這は以ての外の粗惡品にて到底飲料に適せざるより熊次郎方に赴きて相當價格にて買戻方を交渉したるも熊次郎應せず仍て已むを得ず警察に說諭方を願ひ出でたるを以て双方を警察に召喚し取調ぶると熊次郎は該葡萄酒が何處より出でたるか知らずと陳述するを以て警官の怪しむ處となり種々取調ぶると蓬萊町一丁目十二番福島縣生れ益田友之助（十八）と云ふが去る六月古市町山本盛三郎と三十六本を或る物品と交換したるを熊次郎に依托販賣したる事發覺し該葡萄酒は封印の上目下不正かあらぬかに就き警察にて試驗中なり

●淫賣狩は西署も功あり

本紙前號南部署の魔窟狩りと題して長谷川町太平町の淫賣狩りを南部署にて行ひ從前に無き功を修めたる旨記載したる記事に就て南部署より右は西部署も關係あり協同して檢擧したる旨特に申込まれたれば扨ては此に西署も功ありと題して書くなん

●雇主の粗忽

昨七日大坂府平民當時南大門通り二丁目居留靑物商東野梅太郎（三十）は自家の雇人尹建鳳が金仁瑞と云ふヨボと互に荷車を衝突して喧嘩をなし居りたる處に飛んで出で金の朝鮮帽を破損せしめたる爲め警察沙汰となり損害金四十錢を辨償して事濟み

●金錢は賭けませぬ

一昨六日南部署の警官が長谷川町野村ヒサ方に天然痘あり尙他に隱匿したる患者あるやに聞き込みたるを以て其の附近に出張して調査中の處同町一丁目十八番戶植村彝吉（三十）方に於て同人を始め宗岡熊吉（三十）同立花キク（四十）米田アイ（五十）の四人が骨牌を弄し居りたれば早速踏み込みて取調ぶると私共は金錢を賭けて行るのではありませんと辯疏し現場にも金錢等なかりしを以て說諭にて事濟み

●天然痘

京城長谷川町一丁目二十番地小林榮藏方里村ヒサ（七十）は六日天然痘に罹り靑坡病院に送られたり

●天氣豫報（自七日午後六時至八日午後六時）

はれ

七日午前六時各地氣象概況東の風吹き南部は曇天其他は晴天なり

西の宮お樂の述懷(廿三)

◎尾崎さんご面會

前にお咄をした福澤塾の二人の書生さんの内の其一人と云ふのは外でもありませんが今の東京市長の尾崎さんでムいます、ソレで尾崎さんとは並外れて御懇意の仲でしたから私が吉原を後にして此の仙臺へ參つて仕舞つたので其後打ち絶江てお目に掛ることが出來ずに居りましたが丁度演説會が濟んでの其夜或料理屋で其黨派の方々の懇親會がありました其席へ私もお酌に聘ばれて出ましたが吉原を喰ひつめてコンナ片田舍へ流れて來て居るので何んだか尾崎さんにお目に掛るのが氣がひけてなりません成丈尾崎さんや加藤さんに見つからないやうにと隅の方にばかり居りましたが併し腹の中の嬉しさといふものは何んとも言へませんでした、唯もうソワ〳〵と許りして居てお客樣に咄掛けられても其返事がトンチンカンで平素の私とはまるで違つたやうに自分ながら思はるゝのです、サテ其の晩の宴會といふは普通とは違つて何となく景氣づきソレは大變盛んで何時散會になるかと思はれる位でしたが其の内に尾崎さん抔はお客樣の事故頃合を計らつて席をお起ちになる私はコヽでお目に掛つて置かなきア又何時お目通りが出來るか出來ないか判らないと思ひましたので玄關口にお出でになる後から送り出す人混を驅け拔けて尾崎さんが靴をおはきなさらうとして居らつしやる其側に往き「如何もお久しふムいました」とヤットの思ひで言葉をお掛け申すと鳥渡おふり返りなさいましたが暫時は默然て何か考へて居らつしやるやうな御樣子なんですソレも決して無理はムいません、吉原に居た頃の私と仙臺へ來てからの私とはスッカリ樣子が變つて居りますから突然に御覽になつたのでは誰であつたかお判然にはならん筈ですソコで私は「見忘れなさいましたか……●●らくでムいます」といつて私が持前の高笑を致しますとヤットお判然になつたと見江「アヽ●●らくか……如何も此れは意外ぢやつた實の所餘り意外ぢやつたのでツヒ見忘れて……如何も濟まなかつたお前には種々と咄したい事がある明日の午前は幸ひ宿に居るから尋ねて來るが宜いゆつくりと久濶を溫め樣……キット尋て來いよ待つて居るから……」とおつしやつて例のゆつたりした容子で俥にお召してお歸りになりました私は嬉しくつて〳〵堪らず未だ宴會も濟まない内に幇間さんに縋つて無理からお暇を頂き無我無中で我が家に歸つて參りまして尾崎さんの所へ持つて行くお土産を那れか此れかと考へ自分で出掛けてソレを整へましたが其の夜はまつたくのところ落ち〳〵眠らずいろ〳〵の事を考へましてトウ〳〵考へ明かしましたが翌朝は早々身仕度をして俥でもつて出掛けました(つゞく)

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金卅五錢 ▲三ヶ月前金壹圓 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵稅一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西署西小門通 京城新聞社 電話六六三番